

**【規格名（和名）】**

ICD10 対応標準病名マスター

**【規格名（英名）】**

ICD10-based Standard Disease Code Master

**【規格の目的、概要】**

ICD10対応標準病名マスターには、ICD10コードの併記された標準的な傷病名が収載されています。マスターの編纂にあたっては、医学的な問題については各分野の専門医や関連医学系学会に照会を行い、ICDコーディングについては厚生労働省ICD室の監修を受けています。

レセプト電算処理システムの傷病名マスター（社会保険診療報酬支払基金による）との統合作業を行い、統一病名マスターとして、ICD10対応標準病名マスター Ver.2.10が2002年6月にリリースされました。続く2003年4月には、修飾語マスター（同基金による）との統合がなされました。

ICD10対応標準病名マスターは、「病名基本テーブル」「修飾語テーブル」「索引テーブル」で構成されています。

「病名基本テーブル」は各病態に原則として1つずつ決められた「病名表記」から構成されるテーブルで、標準病名マスターの基本となるテーブルです。「病名表記」とは、いわゆるリードタームを指し、ある病態を代表するに最もふさわしいと考えられる傷病名を「病名表記」としてあります。

「修飾語テーブル」には「病名表記」に付加して利用するための修飾語を集めています。

「索引テーブル」は「病名表記」の同義、類義語や修飾語、異字体などから「病名表記」または「修飾語表記」へ支障無く誘導できるように用意されたテーブルです。

**【規格の適用領域】**

電子カルテ、オーダエントリーシステム、

医事システムなどにおける、病名入力およびICD10、レセ電算コードなどのコーディングに適用されます。リードタームに対する病名コード検索のほか、修飾語付加による病名造語、病名索引情報による同義・類義語による検索をサポートします。

**【関連他標準との関係】**

レセプト電算処理システムの傷病名マスターおよび修飾語マスターとは、見出し語および各種コード情報の連携がなされ、実質的に同一の病名マスターとなっています。

ICDコードは原則としてICD10（International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems；邦訳「疾病、傷害および死因統計分類提要；2003年度版」）に記載されたコーディングルールに従っています。

**【規格の入手方法】**

一般財団法人医療情報システム開発センターからダウンロードできます。

<http://www2.medis.or.jp/stdcd/byomei/>

**【メンテナンス状況】**

標準病名マスター作業班により検討された内容をもとに、年4回（6/1、10/1、1/1、3/1）の定期的なバージョンアップを行っています。

また、2012年3月26日付、厚生労働省保険局医療課事務連絡「傷病名コードの統一の推進について」を受けて、傷病名における同義語を病名表記と対応づけた一覧表を併せて提供しています。

**【現在の改版状況】**

2016年3月現在、Ver.3.20が提供されており、病名基本テーブルには25,108件の病名が収載されています。また、病名作業班ホームページには、各種OSに対応した病名検索ソフトウェア（病名くん2.0、病名さん）が無償で公開されています。

<http://www.dis.h.u-tokyo.ac.jp/byomei/>